

皆様

The Lancet の今週号 (May10-16, 2025)に、ついに下記「創傷の陰圧閉鎖療法の RCT」が掲載されました。

Negative pressure wound therapy versus usual care in patients with surgical wound healing by secondary intention in the UK(SWHSI-2):an open-label, multicentre, prallel group, randomised controlled trial,
The Lancet, May 10, 2025, p1689-1699

その内容は驚くべきもので一般的保存治療と比べて有意差はないと言うのです。
当、西伊豆健育会病院でもこの4月から陰圧閉鎖療法(NPWT、Negative Pressure Wound Therapy)を始めたばかりでしたのでいきなり出鼻を挫かれた思いです。

NPWT は 1990 年代に始まり年々多用されるようになりました。
難治性の創傷をシールで覆いチューブを付けて陰圧で吸引し創傷治癒の促進を図ると
いうもので革命的と思われました。しかし今までこの治療の RCT がなかったのです。

今回は 2019 年から 2023 年まで 686 人の患者をランダムに NPWT349 人、通常治療 337 人に割り付け 12 カ月経過を見たものです。年齢中央値 63 歳、糖尿病など下肢の創傷で、手術で創縁を寄せることができない場合に行われました。治癒の確認は対面、あるいは写真判定で行われました。

結果は治癒迄の時間、再入院、再手術、感染、抗菌薬投与、切断、死亡のいずれも有意差を認めず器械製造会社の言うような効果はなかったというのです。

この結果により、主要な機器メーカーの今後の方針や市場動向にも影響が及ぶ可能性があると考えられます。

西伊豆健育会病院

仲田和正